



ボクのお師匠さま


DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



一目見て抱いたのは
憧れだった


綺麗な弾幕

見惚れるほどの
洗練された体捌き




そしてそれらの前に
崩れ落ちて行く妖怪

大丈夫ですか？




弟子にして
下さいっ!!




その全てを見ていた僕は
こう言わずにはいれなかった

……で

と



何度断られようが
諦めない気でいたが




拍子抜けするほど
あっさりと
許可してくれた

それから辛く厳しい
修行の日々が始まる



答だった――



し師匠……
そんなされたら……

私は師匠と呼ばれる程の
功夫を積んでいません
その呼び方は身に余ると
言ったじゃないですか

まったく
ちよくちよく忘れませぬ
そんな子は――

いや実際修行をつけてもらい
へトへトの状態でこうなるから
正直かなりしんどくはあるけど

ああつ
美鈴さん……
もつとやさしく……っ





ほら♡
出して
いいんですよ

~~~~~

ぽん♡

ぽん

あっ  
ああっ

ぽん

ぽん



こうやってちゃんと褒めて  
ご褒美もあげないと  
最近の若い子は根をあげちゃうと  
聞きましたから

色々勘違い  
している

ぽんぽんぽん

根をあげるなんて  
そんな事…





いい意気込みです

ムム

ムム

じゃあ  
体力づくりの為に  
もっと体を  
動かさないとダメですね

こんなのいくらなんでも  
おかしい事は  
僕でも分かっている

でも僕のちんちんは  
目の前の誘惑に  
逆らえないでいる

我ながら情けない







どうしたんです？

美鈴さんのナカ  
きつくて……っ

さっきから先っほしか  
入ってないですよ

にゅん

ぬん



これじゃ特訓に  
ならないですよ

頑張りますっ

は……  
はっ

もっと力いっぱい  
突いてください

アッ

アッ







ほら早く  
イって♡

気持ちよく  
なっちゃお♡

はいっ  
美鈴さんのおまんこで  
イっちゃいますっ

あっ♡

あっ♡あっ♡あっ♡

びゅーっ♡  
びゅーっ♡って  
中出ししちゃってる♡

あああああっ♡







いっぱい射精できて  
気落ちよかったね♥



功夫を積みめばこんな事にも  
流されなくなるのだろうか



だけど師である美鈴さんは  
流されるどころか  
毎日もとめてくるし…



いつか僕も美鈴さんのように  
なってしまうのだろうか

一休みしたら  
もう一回しようね♥

は…はい♥

…将来が怖いです



数ヶ月後

今日は日頃お世話になっ  
ている美鈴さんに  
少しでも恩返ししたくて  
プレゼントを渡した

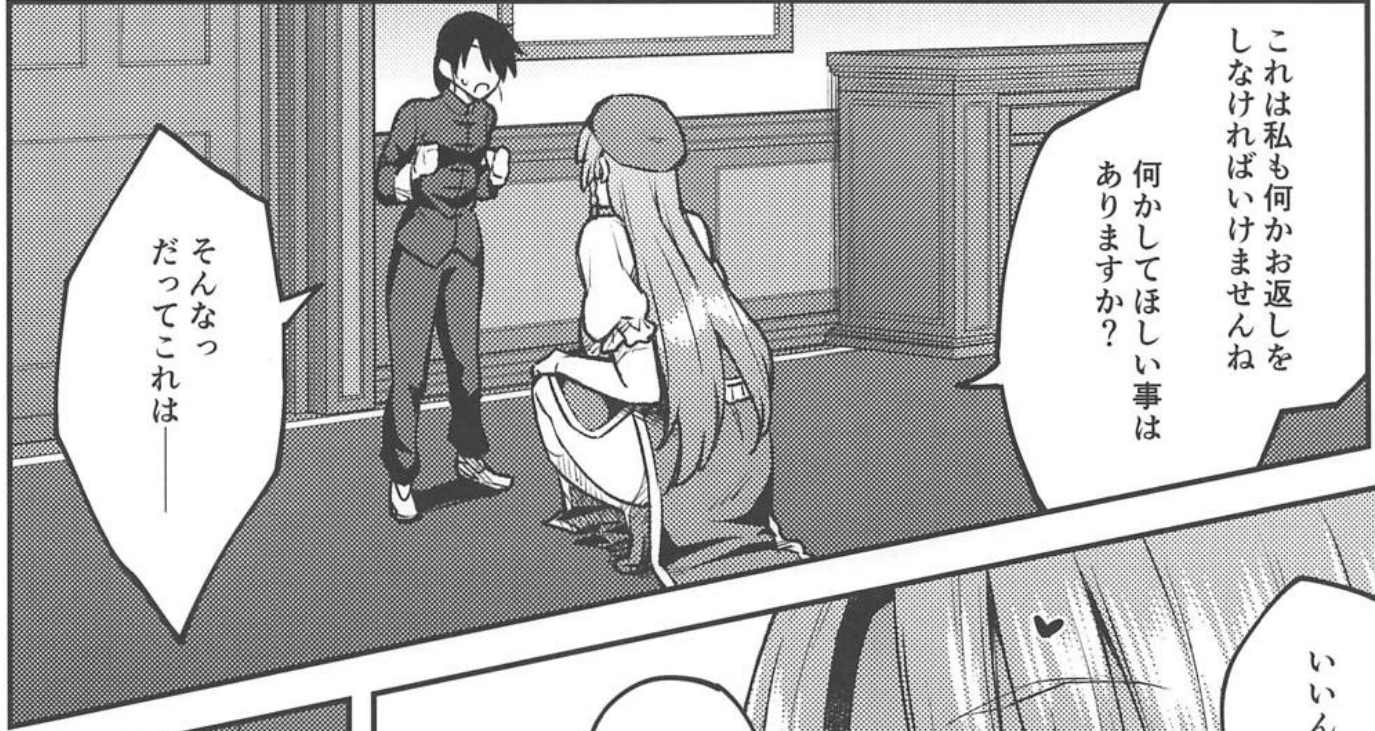
どんな反応をされるか  
心配だったが美鈴さんは  
とても喜んでくれた



これは私も何かお返しを  
しなければいけませんね

何かしてほしい事は  
ありますか？

そんなっ  
だってこれは――



いいんですよ♡

ほら何でも  
してあげますから♡

チヤホシ♡

じゃ…

じゃあ――





これからは  
早く寝ましょう

え？

メイド長さんから  
聞きました

昼間ちよくちよく  
寝てしまつてると

これってやっぱり  
いつも遅くまで  
しているのが…

僕これ以上  
美鈴さんを  
困らせたくないです

いっぱいエッチ  
出来なくなるのは  
嫌だから断りたい  
という感情と――

自分の事を思いやつてくれる  
やさしさが嬉しくて  
頼みを聞いてあげたい  
感情がせめぎ合っている





わ…  
わかりました

そして美鈴さんと僕は  
眠りにつくことになっ  
た



んだけど…

いつもはもっと  
恥ずかしいことを  
している筈なのに

なぜか自分の  
心臓の音がうるさくて  
なかなか眠れなかった



それから  
数日して――

どうされたんですか  
メイド長さん？

ああ貴方

いえここ最近  
美鈴が真面目に  
起きて働いているので…

いたい  
なにか…

やはり美鈴さんの居眠りの  
原因はあれだったんだ

それに鬼気迫るといふか  
只ならぬ雰囲気なのよね

これで美鈴さんが  
メイド長さんに  
怒られる事もなくなる

！





今から  
犯すから

ごめんね

へ？

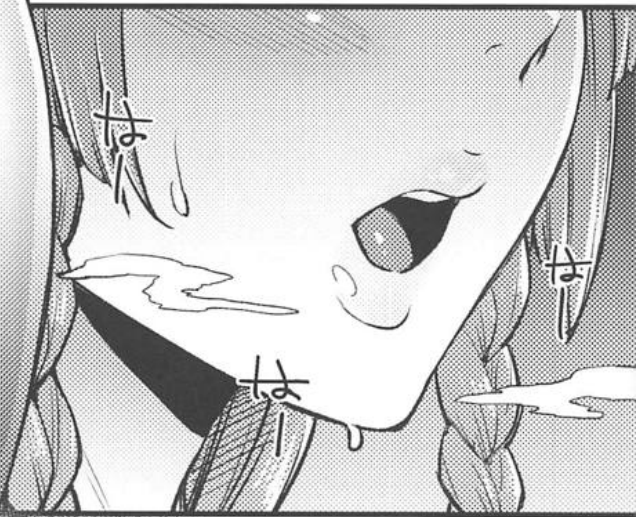


そう今までが  
おかしかったんだ

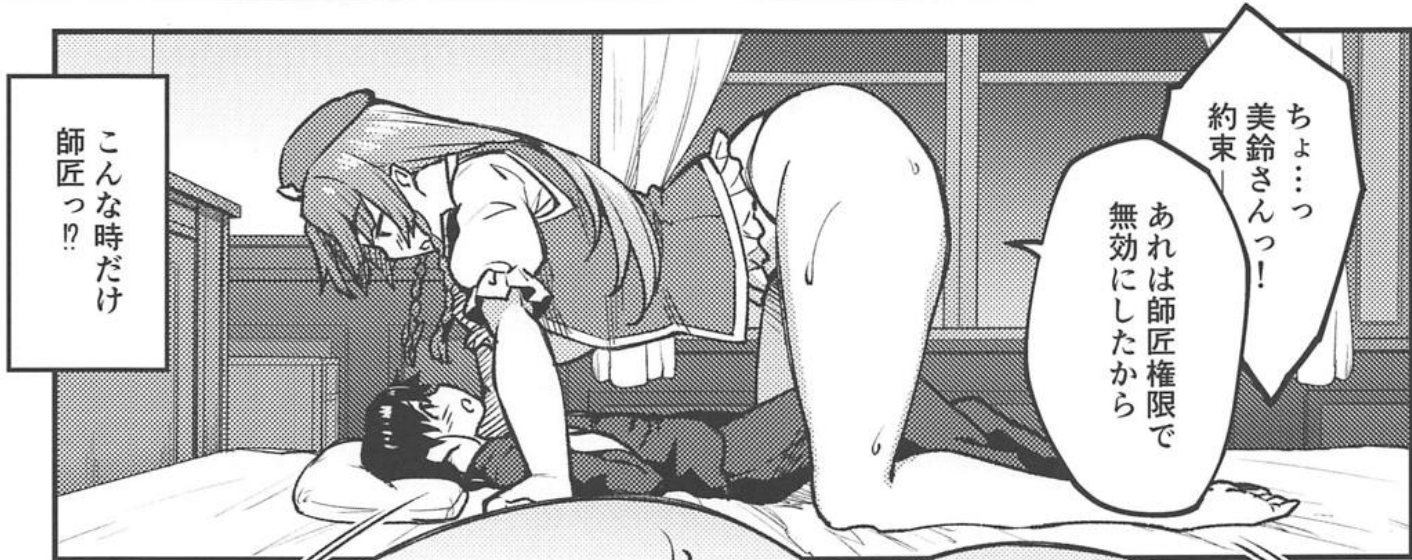
あんなの僕なんかには  
勿体無さすぎる



これで普通の  
状態にもど









今日は朝まで  
するから



コレえ♥  
私専用の  
シヨタちゃんぽ♥



君のちんぽも  
久し振りにおまんこ  
出来て悦んでる♡

君のちんぽ  
久々すぎて  
挿入れただけで  
イっちゃった♡

そ...っ  
そんなこと...っ

君のちんぽの事は  
私が一番よく  
知ってるんだから♡

ウソついても  
ダメだから

いっっぱい  
シよ♡

今まで  
できなかった分





それから僕のちんちんは  
ずっと美鈴さんのおまんこに  
入ったままだった



精液♥子宮に  
掛かっている♥

あっ♥



やん♥



美鈴さんっ

美鈴さんっ







美鈴さんのおまんこは  
際限なく気持ちよく  
なっていていき

また  
出ちゃうっ

美鈴さんの  
おまんこで  
イっちゃうっ

気付けば僕は美鈴さんの  
ナカに突き入れる事しか  
考えられなくなっていた



おん

おん

おん

おん

おん

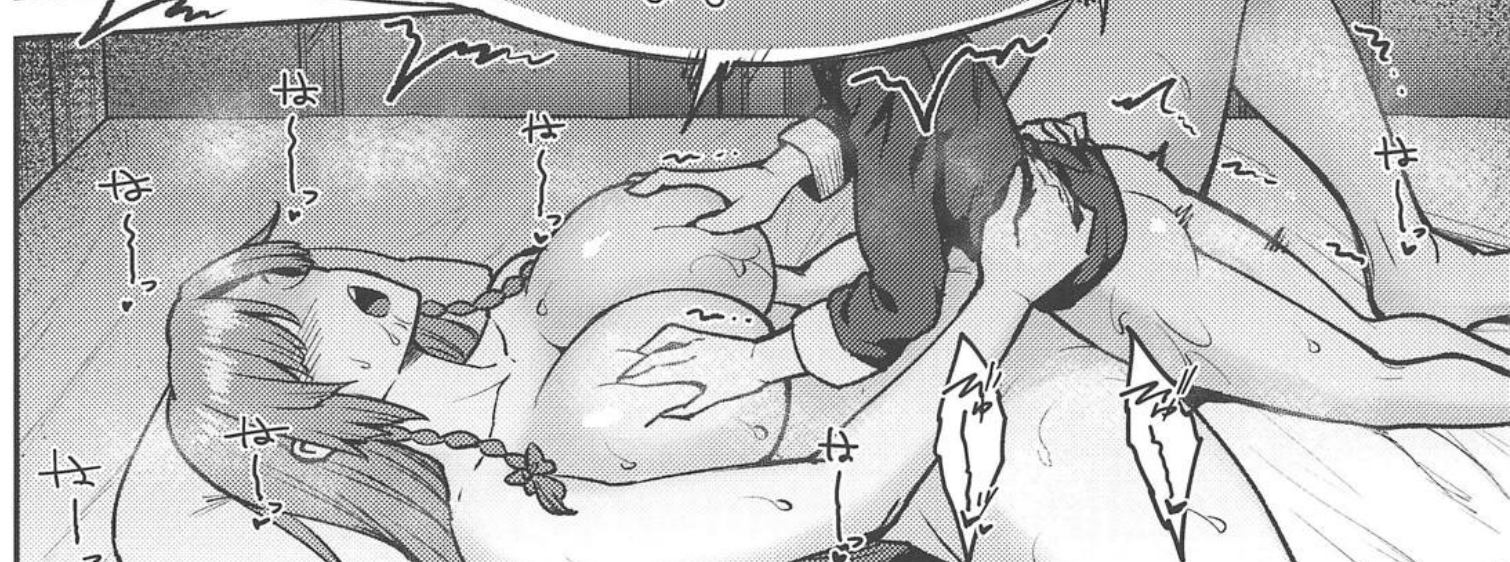






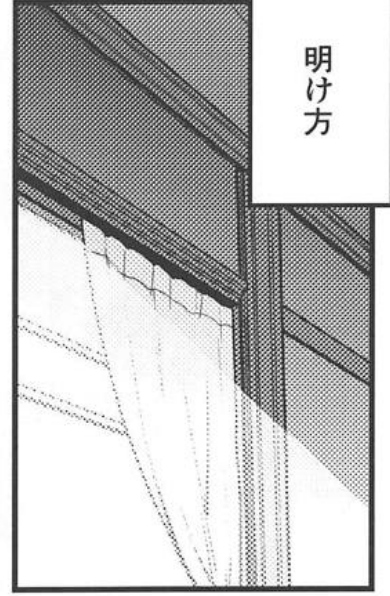
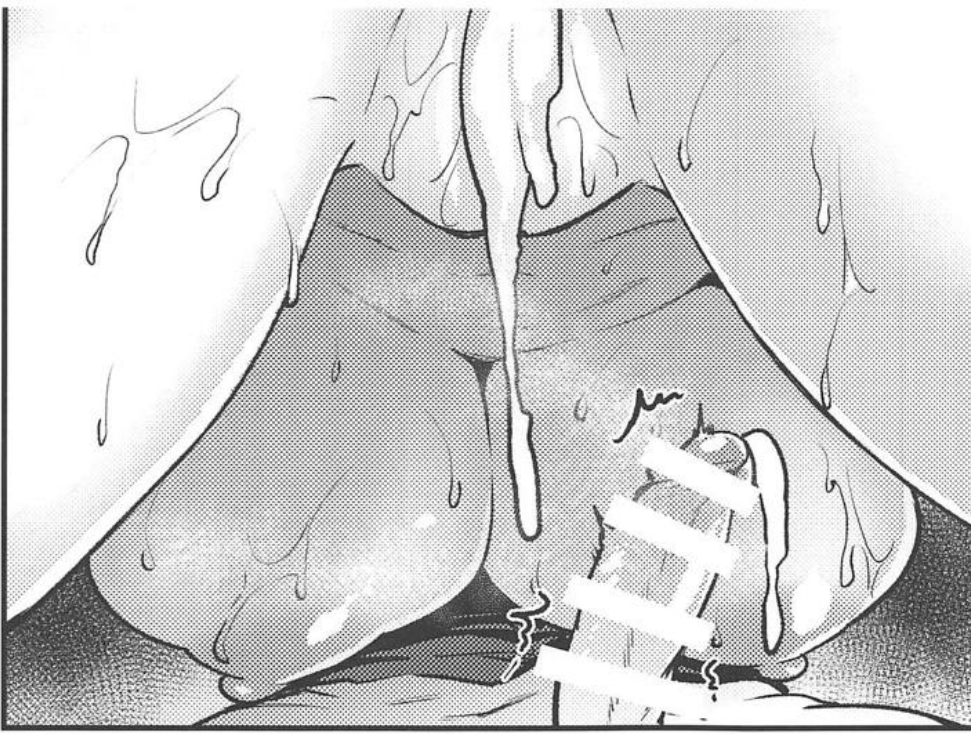








明け方

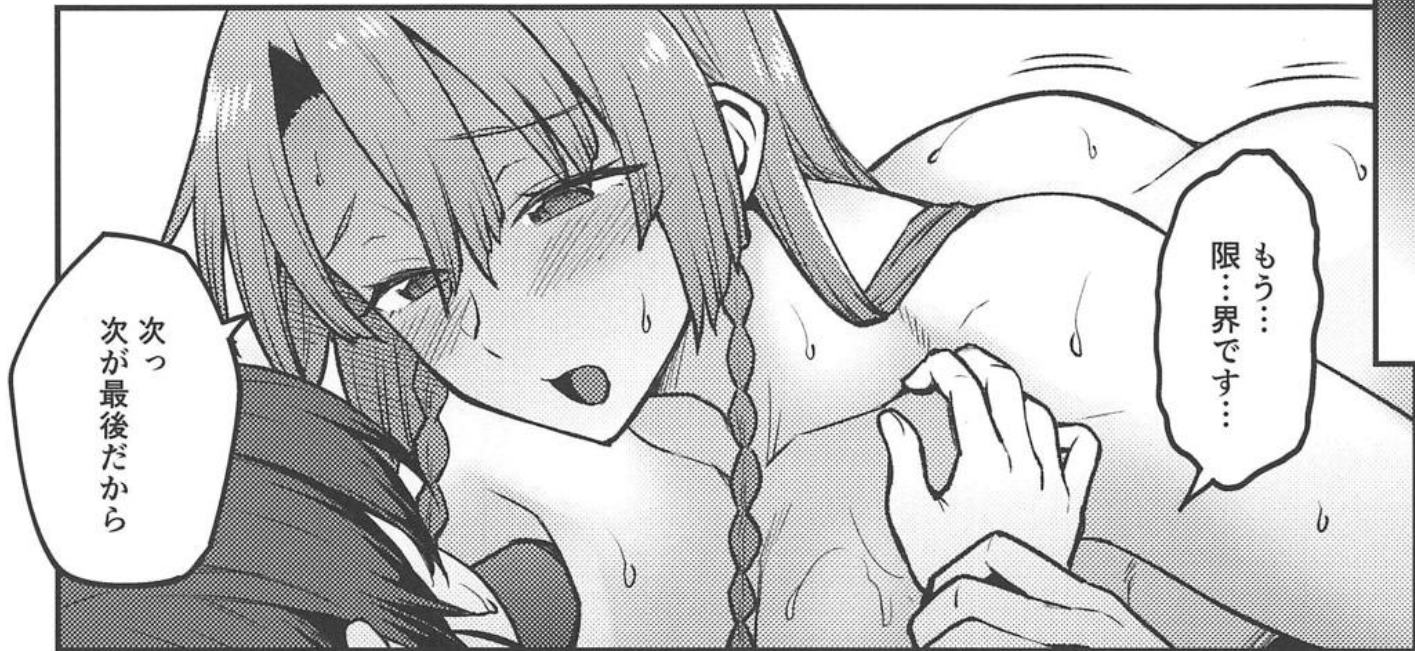


この言葉を何度聞いただろうか

日が昇っても一向に終わる気配がない

あとどれだけ最後が続くのだろうか





次っ  
次が最後だから

もう…  
限…界です…



ってあれ？

まだまだ師匠には  
追いつけなさそうです

■奥付■

原作 東方Project / 上海アリス幻楽団

発行 広十練習帖 / 広弥

<https://www.pixiv.net/member.php?id=238117>

<https://twitter.com/hiroya1610>

<http://hiroju.blog95.fc2.com/>

発行日 2019/10/6

印刷 ねこのしっぽ様

※18歳未満の閲覧、購入禁止 複製、無断転載禁止



